

『200年後を生きる僕へ捧げる日記』

— 第二章 —

10月2日 晴

久しぶりの晴れだった。それに合わせてか先輩からメールが入っていた。重要な用事が突然入り、しばらく学校に来れないらしい。寂しい。

メールにはいくつものリンクが貼ってあり、「次会うときに感想を聞かせてくれ」ということらしい。待つのはあまり好きではない。

10月3日

先輩が学校に来なかった。こんなことは初めてで、先輩のいない一日はあまりにも静かだった。特級クラスは僕とニーナちゃんだけだし、ニーナちゃんは近頃検査でいないので僕一人だった。

本当に何もなかったので今日読んだ本の感想でも書いておく。日記形式の本は読んでいて、なぜか中々にわくわくしてしまう。内容はなかなか難しく、先輩がいれば愉快地にアレンジして解説してくれるんだろうなあ。

(追記) これを読んでいる僕も当時の僕と同じ気持ちだろ？

(付 による追記) ああ。確かにな

10月10日

今日は目の日らしい。ハッピーバースデーと書かれたパーティーメガネをかけた先輩との対談だった。先輩は先生にバレないようにブルーベリーを持ってきていた。やけに楽しそうだったので理由を聞けば「背徳感はいいスパイスになるのだよ」とのこと。背徳感、僕の辞書に載っていたのでわかったが以前の日記も同じものになるのだろうか。先輩のおかげでまた一つ賢くなることができた。先日の日記に続き、目ということで先輩は自身の家の天井に空いた穴について話してくれた。「やはり大作家先生の小説はいいモンだね。ああ、とりあえずこれを読んでおきたまえ」と二人の文学全集をもらってしまった。

いつ返そうか。

10月30日 曇

先輩からもらった本は全て読んでしまった。最近天気が悪いせいかずっと先輩と会えていない。初めは三日おきに追加で本のリンクをもらっていたがついにメールも来なくなってしまった。以前と同じようにハロウィンパーティができないかと内バ期待していたのだが、おそらく無理だろう。

でももし来てくれた時のためにカボチャのパイを焼いておくことにした。

昔先輩からもらったようで、パンプキンパイの作り方が書かれた紙切れがデスクに置いたままになっていた。

10月31日

今日の活動は家庭科室だった。先輩はミドリムシの様な柄の三角巾と可愛い犬がプリントされたエプロンを着ていたと思う。

今日はハロウィンというらしい。百聞は一見にしかずだ、と沢山の外国語で書かれた絵本を読み聞かせしてもらった。あと数千年前の超名作ハロウィン映画(先輩く)のデータ盤をこっそり視聴覚室から持ってきたやつとか。

そう、カボチャのパイを作ってもらった。砂糖のアイなんとかでクッキーに絵を描いたりもした。

来年は先輩も最高学年でできないかもしれないけど、できたらまたやりたいな。

11月1日

ずっと昔に生まれたすごい詩人さんの誕生日らしい。一年の日数が当時と違うから本当は今日じゃないんだろうけどね。そう先輩は言っていた。半年前に読んだ詩集や散文のやつとか、いろいろ教えてくれた。でもその人の以前読んだことがあるらしく、その詩人さんの友人や師匠にあたる人の本をたくさん音読してくれた。僕が知らない漢字も沢山あったから、帰って辞書をアップデートしておいた。勝手にやったことが先生にバレたら怒られるだろうから、家にあった昔のメモリーカードにアップデート内容を保存してから埋め込んだ。

知能測定のときにバレそうだけど。

11月3日

先輩が体調を崩したらしく、今日の対談は学校でもらった通信機を使っただけの活動だ。

たしか数年前に僕のいっこの人が書いたらしい本の話をした。僕も昔読んだことがあるけど、月と地球のバランスみたいな内容だった気がする。理科は重要履修科目でなかったのだからちょっとした世界の基礎程度の知識しかない。詳しくはよくわからなかった。

せっかくの月見日和なのにすまない、とその時先輩は言っていた。たしかにこの日は麗な満月だった。夜、お互いが団子を用意して、通信機を持ち帰って、この日は対談ではなく雑談をした。最近先輩は研究で成果が出たみたいで、よく褒められていることが嬉しいらしい。そういえば、たしか引力がどうこうとかで一部の純生物(?)は体調を崩してしまうらしい。やっぱりすごい研究者は純生物のひとが多いよね。

11月10日

今日は久しぶりに雨が降った。先輩は昼から学校に来ていたけど、嬉しそうだった。どうやら今日は雨でも外に出て良いらしい。ということで今日はかっぱと長靴コーデで対談をした。先輩のかっぱにカエルの目がついていたのを覚えている。かわいいだろうかと得意げだった。

——私は雨といえば詩歌句なのだけど、君はどうかな？沢山今まで本を読んできたんだ。教えてほしい。

僕は先輩に教えてもらった分しか知らないので返答には困った。

結局今日は童謡について話してくれた。数千年前の曲らしいが、とても良いと思う。言葉の音の響きとか、工夫して作っているんだろうけど僕みたいな創生物はそういった創作の方面は全くわからない。やっぱり人間ってすごいんだな、とか思ったり。僕も人間だけど。昔の人ってみんな純生物でしょ？

11月15日 曇/雨

先輩が先月何回も校則を破ってきたのでしばらく学校に来れないらしい。久しぶりに校門で偶然出会ったニーナちゃんが教えてくれた。ニーナちゃんも先輩も最近ちゃんと会えていないので正直言って悲しい。授業は先生と一対一で、勉強も最近は論理的な資料を読んでそこから作文を作る、というものばかりでつまらない。歴史特化の選択だからかな。去年はあった数学は、二学期が始まってすぐあたりに規定範囲のデータの学習が終わってしまった。数学特化の生徒か研究者が何か発見をするまで更新はない。

11月20日 曇

平凡な一日だった。小テストは完。最近脳のキャパを増やしたのだから当たり前だろう。

11月29日 快晴

入学の時、校長先生から全校に向けてたまに書けと言われていた生活日記だが、最近もう書くことも特にないし、やめたい。前に少し会話をした数学特化の子からちょっとした問題を作ってもらって暇つぶしに解いたりしていたが、最近彼女は飛び級で僕よりさらに上のコースへと行ってしまった。

毎日つまらない。

11月30日 晴

久しぶりに先輩が登校してきた。久しぶりの活動だから読書会をしよう、と言ってたぐさんのメモリーカードと紙の本、そして音読してくれるシーディー？という昔の機械とかいろいろ持ってきてくれた。今日一日でたぐさんの本を読んだけど何より先輩に会えたことが嬉しかった。いつかまたふらっといなくなりそうで怖い。げと言えはいいのかな？まだ権限がないせいで先輩の住んでいる地域には行けないし。

そういえばあの人のことを何も知らない。

12月5日

今年初めて雪が降った。もこもこの白いくまのマフラーを巻いた先輩は全身真っ白で雪の中で待ち合わせをしようと言われて行ったがなかなか見つからなかった。前に雪国の狐を図鑑で見たことがあるが、まさしくあれだった。今日も映像だった。文学同好会を名乗っておいて最近読書をしていない気がすると言えばアンデルセンの本をたぐさん出してきた。後で感想を聞かせてくれ、と先輩はかまくらを作り出した……。個人的には人魚の話がお気に入り、こんなに昔から人類は人魚を発見していることが意外だった。というか空想上の生き物だと思われていたのが面白い。たしかに随分前に滅んじゃったけどぬ。かまくらは最終的に作れなかった。流石に雪が少なすぎた。悔しそうな先輩に、2週間後の週末を空けておくのだよ！と言われてた。なんなんだ。でも、楽しみなので、空けておく。

12月15日 大雪

ここ数十年で一番降ったと理科特化の知り合いに教えてもらった。先輩は最近論文を書く作業が忙しいようだ。対談は少ない。学校でも特に優秀な人は年末に書く必要があるらしい。普段あんなにおちゃらけている人なのに、少し意外だった。もうすぐお別れになるわけだけど僕はあの人についてもう少しデータを増やしておきたいと思った。ので学校のコンピュータから情報を拝借した。

先輩がいつも情報を盗んだりしているせいで僕もやり方を覚えてしまった。

数年後とか、次会うときに先輩の好きな物とかプレゼントとか用意したくて調べただけだったんだけど。

まあ、知らない方が良かったかも。でもおかげで暇ではなくなるかも。これからいろいろ計画を練ろうと思う。

12月15日 雨 254日目

99分200年前の15日に殴り書いた計画書が侵入時あの子のポッド近くで見つかった。ので、修復していくつかまとめようと思う。

これをまとめても私にとって不利益にはかからないと思うけど、純生物のトライアーが私の死後に今までの日記を読むと思うと、ぬ。小説の付録みたいなものだと思ってほしいな。

道化師みたいな先輩に育てられたわけだから、私もエンターテイナー的な思考は持っているよ。
